

北社会ニュース 第18号

2005-11-16

発行： 鈴木壮夫

冒頭から私ごとで恐縮ですが、私は5年後の2010年、69才でそば屋を閉じて、仙台に戻り、70才から二つのライフワークに挑戦しようと決意しております。ですから、仙台市や宮城県のことには川崎市や埼玉県のことより百倍も気になります。新幹線で2時間もかからないのに、その土地に住んでないため、伝えられるニュースに実感がわからないことも事実です。今回の宮城県知事選挙結果を踏まえ、数人の同窓生からお便りをいただいた。「村井氏を別学併存の一点で支持した」という単純派(?)、「過ちを改めざる、是を過ちと謂う」との浅野批判派、「談合世界を再び!」との守旧派、・・・私が共感したのは「歴史が十数年前に戻った」との民衆派でした。

2年程前、仙台ホテルで開催した同期会(ピンピン会)にご出席いただいた名物校長・高橋清久氏のご挨拶の中で、浅野知事の県民の為の県政を高く評価し、反す刀で金権政治の自民党を激しく非難した。宮城県民の当事者にならなければその後の展開はとて私には理解できない。

当選した村井氏は99年9月の定例議会で「男子生徒と女子生徒と一緒に勉強や運動をする方が健全な教育ができる」「早急に共学化に取り組むべきだ」と述べた。考え方を変えて、選挙では共学化見直しを訴えたと報じられている(朝日/宮城)。「共学化」問題一つをとっても新知事がどう判断するか興味深い。

本日の講師・かんま進氏より10月31日、FAXをいただき、ビックリしました。

「実は県知事選と同日おこなわれました県議補選に出馬、どうにか当選し、県議として政治の舞台に戻ることができました」との文章に接したからでした。選挙運動中とは知らず「気楽な便り」を発送したことに後悔させられました。本日、私も初対面です。許されるなら同窓の「よしみ」を有効活用して、一最新「宮城・仙台」諸事情一の活発な講演と討論を切望致します。

<次回以降の予定>

12月：心、せわしく今年も休会にします。

1月18日(水) 年頭総会

- ・2005年会計報告
- ・2006年運営計画概要
- ・懇親会(会員お一人お一人のスピーチ)

2月15日(水) 阿部孝氏(高27回) IBMビジネスコンサルティングサービス(株)
仮題「日本におけるインターネットの利用動向」

<世話人としての今年の総括>

5人がそれぞれ役割分担をして、昨年年初から引継ぎ、北社会をともかく2年間継続することができました。世話人、仲間内でメールをやりとりした結果、先ず参加いただいた会員に感謝との謙虚な言葉が飛びかいました。

今年の開催毎の北社会出席者の平均は39名でした。昨年の36名よりは微増ですが、2年前常時60名以上の出席者を思い返せば、力不足かなと残念にも思えます。一方、現在の人数(40人規模)が適性規模ではないかなとも考えることもあります。

何故なら、会員一人一人が当事者となりうるような環境造りが必要と思うからです。もっともっと多くの会員が質問をしたり、意見表明をしやすい「雰囲気」をつくれなかなあ・・・と考えているからです。5人が共有している北社会への「思い」です。

変えられるのは「私達会員」と「未来」しかありません。貴重な時間をもっともっとお互いのために有効利用しあう「工夫」を捜し出しましょう！ 努力しましょう！

<みやぎゆかりの店>

宮城県東京事務所では首都圏のみやぎゆかりの店を作成・紹介を始めました。

店の主人が宮城県の出身であったり、宮城の郷土料理や地酒が味わえる店、宮城県産の食材を用いた料理が堪能できる店を紹介しています。

同時にここで紹介する店は「首都圏みやぎ応援団」として、店内にみやぎの観光ポスターを貼ったり、パンフレットをおくなど、首都圏での「みやぎ」の情報発信にも、一役かっけていただいています。

<http://www.pref.miyagi.jp/tokyo/>

ご覧になって推薦できる店、その他情報がありましたら連絡してやって下さい。

<推薦図書>

「下流社会」 三浦展著 光文社新書 780円+税

9月20日初版から2ヶ月も経ていないのに30万部のベストセラーだそうです。私は昭和16年生れ、敗戦後の世の中、ごくごく少数のお金持ちと99.9%が貧乏でいつも腹をすかせて育った。経済の復興と共に、少しずつ豊かになり、

「中流意識」でなんとなく大きな疑問を抱かずに過ごせた。

幸せな環境だったのだと思わせる本です。

「上」が15%、「中」45%、「下」が40%の時代がやってくる!?

パラパラと読んでみたら如何でしょうか。